



国際標準論理文章能力検定

International Standard Competency
Test of Logical Thinking

Level 10

2013年度 第3回

問題用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。

まず、下記の注意をよく読んでください。

●検定上の注意●

1. 検定時間は90分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

一般財団法人 基礎力財団

問題 I 次の問いに答えなさい

第一問

後の問題文には (1) ～ (5) のような論理的に誤った箇所があります。それぞれ (1) ～ (5) に該当する誤った箇所の行数を答え、間違いを抜き出し、正しい形に直しなさい。

- (1) 主語と述語の関係がおかしい。
- (2) 言葉のつながりが間違っている。
- (3) 助詞・助動詞の間違い。
- (4) 接続語が間違っている。
- (5) 読点の打ち方が間違っている。

第二問

問題文を三つの段落に分けて、第二、三段落の最初の七字（句読点を含む）を抜き出しなさい。

【問題文】

- ここ数年、新しい葬り方への関心が高まっている。法務省が一九九一年に遺灰を山や海にまく「散骨」を認める見解を示したこともあって、葬儀社などによる散骨事業への参入が相次ぎ、大手海運会社も乗り出した。ある会社は、二〇〇一年から海洋葬の受け付けを始めた。これは、北米、豪州、欧州航路の定期コンテナ船から、希望の海域に遺灰にまくという形態である。同社のマニュアルによれば、船尾に小さな祭壇を設け、安置して遺灰を黙禱もくとうをささげ、汽笛を鳴らした後に水に溶けて完全分解する特殊な紙に包んだ遺灰を海に入れる。お酒と果物も添えて、敬礼で見送る。後日、写真と船長のサインの入った証明書を遺族に送る。費用は二〇万円である。使用する船は日本人が船長の五隻で、一航海一葬儀のみという条件だが、問い合わせが殺到しているという。問い合わせには、故人が遺言で希望しているので、身内がそれをかなえてやりたいというものと、自分の死後は散骨にしてほしいというものである。家族が海で事故死したり、海の近くに住んでいたりするなど、海とのつながりのある、人の約一割は自分自身海への散骨を希望しているという。一九九九年から海と空の散骨を始めた葬儀社のアンケートでは、六割の人が散骨を容認し、四割の人が自分も実践するという結果であった。ところで、これまでの日本では、死者を葬るにあたっては、葬儀を執り行い墓を設けるのが常識であった。葬式をして墓を作らないと、死者が浮かばれないと考える人がいたり、残された人々が落ち着かなかったりすることもあった。そのような考え方が、葬式と墓を伝統的な死者の葬り方として支えてきたのである。あるいは、先に述べたように、葬式と墓にとらわれず、新しい自由な形式をとって死者を葬ってもよいものではないかという考え方が生まれてきている。死者
- 15 本人の希望、見送る側の立場などを踏まえた上で、死者の葬り方について、どのように考えればよいのだろうか。

問題Ⅱ 次の文章は中島敦「悟浄歎異」^{ごじょうたんに}です。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

三蔵法師は不思議な方である。実に弱い。驚くほど弱い。変化の術ももとより知らぬ。道で妖怪に襲われれば、すぐに掴^{つか}まってしまふ。弱いというよりも、まるで自己防衛の本能がないのだ。この意気地のない三蔵法師に、我々三人がひどく惹^ひかれていたというのは、いったいどういうわけだろう。(こんなことを考えるのは俺^{おれ}だけだ。悟空も八戒もただなんとなく師父を敬愛しているだけなのだから。)私は思うに、我々は師父のあの弱さの中に見られるある悲劇^①なものに惹かれるのではないか。これこそ、我々、妖怪からの成り上がり者には絶対^②にないところのものなのだから。三蔵法師は、大きなものの中における自分の(あるいは人間の、あるいは生き物の)位置を——その哀れさと貴さとをハッキリ悟っておられる。しかも、その悲劇性に堪えてなお、正しく美しいものを勇敢に求めていかれる。確かにこれだ、我々になくて師にあるものは。なるほど、我々は師よりも腕力がある。多少の変化の術も心得ている。しかし、いったん己の位置の悲劇性を悟ったが最後、金輪際^{こんりんざい}、正しく美しい生活を真面目に続けていくことができないに違いない。あの弱い師父の中にある、この貴い強^③さには、まったく驚嘆のほかはない。内なる貴さが外の弱さに含まれているところに、師父の魅力があるのだと、俺^{おれ}は考える。もつとも、あの不埒^{ふらち}な八戒の解釈によれば、俺たちの——少なくとも悟空の師父に対する敬愛の中には、多分に男色的要素が含まれているというのだが。

まったく、悟空のあの実行的な天才に比べて、三蔵法師は、なんと実務的には鈍物であることか。だが、これは二人の生きることの目的が違うのだから問題にはならぬ。外面的な困難にぶつかつたとき、師父は、それを切り抜ける途^{みち}を外に求めずして、内に求める。つまり自分の心をそれに耐えうるように構えるのである。いや、そのとき慌てて構えずとも、外的な事故によって内なるものが動揺を受けないように、平生から構えができてしまっている。いっどこで窮死^{きゆうし}してもな

お幸福でありうる心を、師はすでに作り上げておられる。だから、外に途みちを求める必要がないのだ。我々から見ると危なくてしかたのない肉体上の無防御むぼうぎよも、つまりは、師の精神にとつて別にたいした影響はないのである。悟空のほうは、見た目にはすこぶる鮮やかだが、しかし彼の天才をもつてしてもなお打開できないような事態が世には存在するかもしれぬ。しかし、師の場合にはその心配はない。師にとつては、^④何も打開する必要がないのだから。

悟空には、^{※①}嚇怒かくどはあつても苦悩はない。歡喜はあつても憂愁ゆうしゅうはない。彼が単純にこの生を肯定できるのになんの不思議もない。三蔵法師の場合はどうか。あの病身と、ふせぐことを知らない弱さと、常に妖怪どもの迫害を受けている日々をもつてして、なお師父はたのしげに生なまを肯うまれる。これはたいしたことではないか。

おかしいことに、悟空は、師の自分より優っているこの点を理解していない。ただなんとなく師父から離れられないのだと思つている。機嫌の悪いときには、自分が三蔵法師にしたがつているのは、ただ緊箍咒きんこくじゆ（悟空の頭にはめられている金の輪で、悟空が三蔵法師の命に従わぬときにはこの輪が肉に喰い入つて彼の頭をしめ付け、堪えがたい痛みを起こすのだ。）のためだ、などと考へたりしている。そして「世話の焼ける先生だ。」などとブツブツ言いながら、妖怪に捕えられた師父を救い出しに行くのだ。「あぶなくて見ちやいられない。どうして先生はあなんだろうなあ。」と言うとき、悟空はそれを弱きものへの憐愍れんみんだと自惚うぬぼれているらしいが、実は、悟空の師に対する氣持の中に、（^①）ことを、彼はみずから知らぬのである。

もつとおかしいのは、師父自身が、（^②）ことだ。妖怪の手から救い出されるたびごとに、師は涙を流して悟空に感謝される。「お前が助けてくれなかったら、わしの生命はなかったろうに。」と。だが、実際は、どんな妖怪に喰われようと、師の生命は死にはせぬのだ。

二人とも自分たちの真の関係を知らずに、互いに敬愛し合って（もちろん、ときにはちよつとしたいさかいはあるにしても）いるのは、おもしろい眺めである。およそ対蹠的たいせきてきなこの二人の間に、しかし、たった一つ共通点があることに、俺おれは気がついた。それは、二人がその生き方において、（3）（ ）ことだ。さらには、（4）（ ）ことだ。金剛石と炭とは同じ物質からでき上がっているのだそうだが、その金剛石と炭よりもつと違い方のはなはだしいこの二人の生き方が、ともにこうした現実の受け取り方の上に立っているのはおもしろい。そして、この（5）（ ）ことの徴しるしでなくてなんだろうか。

※① 嚇怒かくど…激しく怒ること。激怒。 ※② 憂愁ゆうしゅう…うれえ悲しむこと。気分が晴れず沈むこと。 ※③ 肯ううべな…物事をよいと認め、積極的に行うこと。

※④ 憐愍れんびん…かわいそうに思うこと。あわれむこと。 ※⑤ 対蹠的たいせきてき…二つのことが正反対の関係にあるさま。

第一問 ———— 線部① とは何か。文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

第二問 ———— 線部② とは何か。文中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

第三問 ———— 線部③ とありますが、「外の弱さ」を具体的に表す語句を文中から十字以内で抜き出さない。

第四問 ———— 線部④ とありますが、その理由として最も適切な一文を四十字以内で抜き出さない。

第五問 (1) () () (5) () に入る言葉を、次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ともに、※①所与を必然と考え、必然を完全と感じている

イ 生き物のすべてがもつ・優者に対する本能的な畏敬※②、美と貴さへの憧憬※③がたぶんに加わっている

ウ その必然を自由とみなしている

エ 自分の悟空に対する優越をご存じない

オ 「必然と自由の等置※④」こそ、彼らが天才である

※① 所与…他から与えられること。 ※② 畏敬…偉大な人をおそれ敬うこと。 ※③ 憧憬…あこがれることやその気持ち。

※④ 等置…二つ以上の物を等しいものとすること。

問題Ⅲ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の言葉を並べ替えて一文を作るときに、不要な言葉があります。それぞれ二つずつ答えなさい。

- (1) 考えや 必要である 正確に 知るためには 自分の 人に 論理が 気持ちを 伝えるためには 感性が
(2) そう 誰かは 人は 分かり お互いに 主観的なので、 合えない しかし 誰でも 簡単には ものだ。

第二問 次の三つの文を③を中心に、一文にまとめなさい。

- ①富士山は誰でも知っている山である。
- ②富士山は世界遺産に登録された。
- ③富士山は日本一高い山である

第三問 次の文章の要点を二十字以内でまとめなさい。

井上ひさしの「日本語教室」を読み返してみました。最初に脳の話から始まるのですが、それが実に示唆に富んでい
るのです。

人間が生まれたときの脳の重さは三五〇グラムくらい、それが成人になると一四〇〇グラムにも成長するというので
す。その成長段階で習得した言語は、その人の人間形成に深く関わるのは当然ですが、特に脳が小さいときに母親か
ら聞いた言葉が第一言語＝母語であつて、それは単なる道具ではなく、その人の精神に深く関わるものだといふこ
とです。

私たちは母語を基礎として、次に英語などの第二言語を学ぶのですが、その際、母語の範囲以内でしか第二言語を習
得できないということなのです。

出口汪^{ひろし}「日本語の練習問題」

※ 示唆に富む…暗に教えられるところを多く含んだ、といった意味の表現。

第四問 次の文章の要点を三十字以内でまとめなさい。

人間の頭脳はコンピュータに似ています。

コンピュータでは、アプリケーションソフトはすべてOSの上に乗って初めて動き出します。なぜなら、何か仕事を命じるとき、必ずコンピュータ言語によらなければならないので、言語処理の場であるOSが必要となるのです。

重たいソフトを動かそうとするなら、当然OSをそれに応じて強化しなければなりません。そこで、ウィンドウズでもアップルでも、絶えずOSを強化し続けるのです。

人間の頭脳でも、より重たいアプリケーションソフトを動かすには、絶えずOSを強化しなければフリーズしてしまいます。

だから、言語処理能力を高めることで、私たちの頭脳OSを徹底的に強化する必要があるのです。

出口 汪^{ひろし}「日本語の練習問題」

第五問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは古い酒を愛するように、古い快樂説を愛するものである。我々の行為を決するものは善でもなければ悪でもない。ただ我々の好悪である。あるいは我々の快不快である。そうとしかわたしには考えられない。

ではなぜ我々は極寒の天にも、まさに溺^{おぼ}れんとする幼児を見る時、進んで水に入るのか。救うことを快とする

からである。では水に入る不快を避け、幼児を救う快を取るのは何の尺度によったのであろう。より大きい快を選んだのである。しかし肉体的快不快と精神的快不快とは同一の尺度によらぬはずである。いや、この二つの快不快は全然相いれぬものではない。^{※①}鹹水と淡水とのように、一つにとけ合っているものである。現に精神的教養を受けない京阪^{けいはん}あたりの紳士諸君はすっぱんの汁をすすった後、^{うなぎ}鰻を菜に飯を食うさえ、無上の快に数えているではないか。かつ、また水や寒気などにも肉体的享樂の存することは寒中水泳の示すところである。なおこの間の消息を疑うものはマソヒズムの場合を考えるがいい。あの呪うべきマソヒズムはこういう肉体的快不快の外見上の^{※②}倒錯に常習的傾向の加わったものである。わたしの信ずるところによれば、あるいは柱頭の苦行を喜び、あるいは火裏の^{※③}殉教を愛したキリスト教の聖人たちは大抵マソヒズムにかかっていたらしい。

我々の行為を決するものは昔のギリシア人の言った通り、好悪のほかにはないのである。我々は人生の泉から、最大の味を汲み取らねばならぬ。『^{※④}パリサイの徒のごとく、悲しき面もちをなすことなかれ。』^{※⑤}耶蘇さえ既にそう言ったではないか。賢人とは^{※⑥}畢竟、^{※⑦}荆棘の路にも、^{※⑧}薔薇の花を咲かせるものことである。

芥川龍之介「侏儒の言葉」

- ※① 鹹水^{かんすい}…塩からい水。塩水。 ※② 倒錯^{とうさく}…本能や感情などが、本来とは正反対に現れること。 ※③ 殉教^{じゆんきやう}…信仰のために生命をささげること。
※④ パリサイ…律法を厳格に守っていたユダヤ教の宗派。 ※⑤ 耶蘇^{やそ}…キリスト ※⑥ 畢竟^{ひつぎやう}…結論。結局。 ※⑦ 荆棘^{けいしきよく}…イバラやとげのある木。

問 ———— 線部とはどういうことか、十五字以内で説明しなさい。

問題Ⅳ 文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は大学で英文学という専門をやりました。その英文学というものはどんなものかとお尋ねになるかも知れませんが、それを三年専攻した私にも何が何だかまあ夢中だったのです。その頃はジクソンという人が教師でした。私はその先生の前で詩を読ませられたり文章を読ませられたり、作文を作って、冠詞が落ちていると言って叱しかられたり、発音が間違っていると怒られたりしました。試験にはウオーズウオーズは何年に生まれて何年に死んだとか、シエクスピヤのフォリオは幾通りあるかとか、あるいはスコットの書いた作物を年代順に並べてみるとかいう問題ばかり出たのです。年の若いあなた方にもほぼ想像ができるでしょう、はたしてこれが英文学かどうかという事が。英文学はしばらくおいて第一、文学とはどういうものか、これではどうていわかるはずがありません。(a) 自力でそれをきわめ得るかというところ、まあ盲目※①の垣かきのぞきといったようなもので、図書館に入って、どこをどうろついても手がかりがないのです。これは自力の足りないばかりでなくその道に關した書物も乏※②しかったのだらうと思います。とにかく三年勉強して、ついに文学はわからずじまいだったのです。私の (1) () は第一ここに根ざしていたと申し上げても差※③しつかえないでしょう。

A けれどもいくら人にほめられたって、元々人の (2) () をして威張※④っているのだから、内心は不安です。手もななく孔雀くじやくの羽根を身に着けて威張※④っているようなものですから。それでも少し浮華※⑤を去※⑥って摯実※⑦につかなければ、自分の腹の中はいつまでたつたつて安心はできないという事に気がつきだしたのです。

B 私はこの世にうまれた以上、何かしなければならん、といって何をしていいか少しも見当がつかない。私はちょうど霧の中に閉じ込められた孤独な人間のように立ちすくんでしまったのです。そうしてどこからか一筋の日光が射して来ないかしらんといい希望よりも、こちらから探照灯を用いてたつた一条でいいから先まで明らかに見たいという気がしました。

(b) 不幸にしてどちらの方角を眺めてもぼんやりしているのです。ぼうつとしてしているのです。あたかも、ふくろの中に詰められて出る事のできない人のような気持ちがするのです。私は私の手にただ一本のキリさえあればどこか一カ所突き破って見せるのだがと、あせり抜ぬいたのですが、あいにくそのキリは人から与えられる事もなく、また自分で発見する訳にも行かず、ただ腹の底ではこの先、自分はどうなるだろうと思って、人知れず陰鬱いんうつな日を送ったのであります。

C 私はこうした不安を抱いて大学を卒業し、同じ不安を連れて松山から熊本へ引越し、また同様の不安を胸の底にたたんでついに外国まで渡ったのであります。しかしいつたん外国へ留学する以上は多少の責任を新たに自覚させられるにはきまっています。それで私はできるだけ骨を折って何かしようと努力しました。しかしどんな本を読んでも依然として自分にはふくろの中から出る訳に参りません。このふくろを突き破る (X) はロンドン中、探し歩いても見つかりそうになかったのです。私は下宿の一間の中で考えました。つまらないと思いましたが、いくら書物を読んでも腹のたしにはならないのだと諦めました。同時に何のために書物を読むのか自分でもその意味がわからなくなってきました。

D この時、私は初めて文学とはどんなものであるか、その (3) を根本的に自力で作り上げるよりほかに、私を救う途みちはないのだと悟ったのです。今までは全く (4) 本位で、根のないうきぐさのように、そこいらをでたらめに漂なよっていたから、駄目であったという事にようやく気がついたのです。私のここに (4) 本位というのは、自分の酒を人に飲んでもらって、後からその品評をきいて、それを理が非でもそうだとしてしまういわゆる人真似まねを指すのです。一口にこう言ってしまうと、馬鹿らしく聞こえるから、誰もそんな人真似まねをする訳がないと不審まねがられるかもしれないませんが、事実はけつしてそうではないのです。近頃流行はやるベルグソンでもオイケンでもみんな向うの人がとやかに

うので日本人もその尻馬※④に乗って騒ぐのです。ましてその頃は西洋人のいう事だと言えれば何でもかでも盲従※⑤して威張つたものです。(c) むやみに片仮名を並べて人に吹聴して得意がった男が比々皆これなりと言いたいくらいごろごろしていました。他の悪口ではありません。こういう私が現にそれだったのです。(d) ある西洋人が甲という同じ西洋人の作物を評したのを読んだとすると、その評の当否はまるで考えずに、自分の腑ふに落ちようが落ちまいが、むやみにその評を触れ散らかすのです。つまり鶉吞うのみと言ってもよし、また機械的の知識と言ってもよし、とうていわが(5) とも血とも肉ともいわれない、よそよそしいものをわがもの顔にしゃべって歩くのです。しかるに時代が時代だから、またみんながそれをほめるのです。

E 私はそんなあやふやな態度で世の中へ出てとうとう教師になったというより教師にされてしまったのです。幸に語学の方は怪しいにせよ、どうかこうかお茶を濁して行かれるから、その日その日はまあ無事にすんでいませんでしたが、腹の中は常に空虚でした。空虚ならいつそ思い切りがよかつたかも知れませんが、何だか不愉快な煮え切らない漠然たるものが、至る所に潜んでいるようで堪まらないのです。(e) 一方では自分の職業としている教師というものに少しの興味ももち得ないのです。教育者であるという素因の私に欠乏している事は始めから知っていました。ただ教場で英語を教える事がすでに面倒なのだから仕方がありません。私は始終中腰ちゆうこしで隙すきがあつたら、自分の本領へ飛び移ろう飛び移ろうとのみ思っていたのですが、さてその本領というのがあるようで、無いようで、どこを向いても、思い切つてやつと飛び移れないのです。

夏目漱石「私の個人主義」

※① 盲目の垣かきのぞき…盲人が垣根かきねの隙間から中をのぞく。見ようとしても見えない。

※② 浮華ふか…うわべは華やかで実質は貧しいこと。

※③ 摯実しじつ…心がこもり真面目なさま。

※④ 尻馬…他の人が乗っている馬の後ろ。

※⑤ 盲従もうじゆう…分別なくひたすら人の言うままになること。

第一問 A ～ E の文章を正しい順番に並べ替え、記号で答えなさい。

第二問 () (1) () () (5) () に入る言葉を、次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ただし、() (4) () の二か所には同じ言葉が入ります。

ア 所有 イ 他人 ウ 煩悶^{※はんもん} エ 概念 オ 借着

※ 煩悶^{はんもん}…いろいろな悩み苦しむこと。

第三問 (X) に入る言葉を、文中から二字で抜き出さない。

第四問 段落 E の中に一か所、余分な三字が入ったために、意味が通じなくなっています。その三字を抜き出さない。

第五問 (a) () (e) に入る言葉として、最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ ところが ウ だから エ それなら オ しかも

問題V

論理的な文章とは、不特定多数の読者に向けて、自分の主張を、筋道を立てて正確に伝える文章のことです。自分の意見について、すべての読者が同じように感じているとは限らないため、自分の主張に対して論証責任が生じます。以上のことを念頭に置いて、①～⑩の材料を五個以上を使って、「日本人の芸術感」について論じなさい。また、後の五つの条件を全て満たすこと。

【材料】

- ① 作庭 ② 公園 ③ 自然 ④ 人為 ⑤ 打ち上げ花火 ⑥ 無常観 ⑦ 永遠
- ⑧ 変化 ⑨ 一瞬 ⑩ 命

【条件】

- 条件① 西洋の芸術感と対比させる。
- 条件② 制限字数は句読点を含めて三百字以上、四百字以内。
- 条件③ 具体例から初めて、最後に結論でまとめる。
- 条件④ 三つの段落に分ける。
- 条件⑤ 原稿用紙の表記上の規則に従う。